

(参考)

本サイトのCRAツールの選び方

# 本学のサイトで利用可能なツール

(本学が用意した化学物質リスクアセスメントツールとその特徴)

○マルチツール: [http://roukan2.ad.u-fukui.ac.jp/risk\\_assessment\\_new/](http://roukan2.ad.u-fukui.ac.jp/risk_assessment_new/)

## 1. 少量・低頻度向け手法

厚生労働省とみずほ情報総研が共同開発した「少量・低頻度の化学物質取扱作業に向けたリスクの見積り方法」をベースにしており、COSHH Essentialsのコントロールバンディングを少量・低頻度取り扱い向けに拡張。作業条件等から推定したばく露濃度を職業ばく露限界の濃度と比較することでリスクレベルを決定。

## 2. 半定量的手法

COSHH Essentialsの手法を中災防が半定量的リスク判定に拡張したもので、2通りの気中濃度目標値の設定方法があるため、リスク評価結果も2通り存在する。

## 3. 定性的手法(コントロールバンディング法)

COSHH Essentialsコントロールバンディングに中災防が作業時間・頻度などを追加した手法。本学が職業ばく露濃度によるハザード見積もりを追加することで、2通りのリスク評価結果を表示。

## 3. BAuA EMKG

吸入ばく露と経皮ばく露とで異なるハザード割り付けを行うBAuA EMKGの手法によるコントロールバンディング法。

○旧JISHA方式：[http://roukan2.ad.u-fukui.ac.jp/risk\\_assessment/](http://roukan2.ad.u-fukui.ac.jp/risk_assessment/)

(本学の学内LANからは利用できない設定になっています)

1. 定性的手法(コントロールバンディング法)

平成26年までの中災防研修で使用されていたコントロールバンディング法で、リスクを5段階で評価。新JISHA方式2のウエイト変更版。本学が職業ばく露濃度によるハザード見積もりを追加することで、2通りのリスク評価結果を表示。

2. BAuA EMKG

新方式の3とほぼ同じだが、吸入ばく露のリスクは5段階評価。

# ツール選択例

## 吸入ばく露によるリスクを評価する場合



マルチツールの**少量・低頻度向け**(使用量が1t以上または1kL以上の場合は**半定量的手法**)でリスクアセスメントを行い、評価結果には**OEL**  
**ハザードレベル**によるものを使用(GHS分類よりもOELでハザードを見積もる方が吸入経路でのハザードを反映しやすいため)。

## 水溶液など吸入よりも皮膚接触による有害性が懸念される場合



皮膚接触によるリスクを別途評価可能な**BAuA EMKG**のコントロールバンディングを使用(新と旧のいずれのJISHA方式ツールにも付属しているので、吸入ばく露のリスク評価に使用する方式に付属のものを使用)。

## その他

リスク評価を5段階で行いたい場合 → 旧JISHA方式(マルチツールは4段階)